

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成28年11月9日(水) 5校時

学 級 花巻市立花巻中学校 2年2組32名

(男子16名 女子16名)

指導者 佐藤 加奈子

1 単元名 群読コンクール～源平合戦の一場面を朗読で表現しよう～

学習材名 5 いにしへの心を訪ねる 扇の的―「平家物語」から (光村図書 国語2)

2 生徒に身につけさせたい力

①描写の効果や、登場人物の言動の意味を考え内容を理解する力【読むこと イ】

②文章の展開や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる力【読むこと ウ】

3 単元について

(1) 生徒について

生徒は昨年度、古典教材では「蓬萊の玉の枝―『竹取物語』から」を学習している。この単元では歴史的仮名遣いの学習を行い、音読を通して古典に触れるとともに、くらのちの皇子以外の求婚者のエピソードも読み、現代にも通ずる古典の魅力を味わっている。また、今年度は「枕草子 第一段」を学習し、約千年前に生きた清少納言に対して、清少納言の季節感と自分の季節感を比較した手紙を書く、という活動を行った。

古典作品を比較的身近な作品として感じることができるようになったが、歴史的仮名遣いや助詞を省略するなどの独特の表現には、まだ抵抗感があり、すらすら読み味わうまでには至っていない。そこで、七五調の力強いリズムがある文章を楽しみながら群読させることが適していると考えた。

(2) 学習材について

「平家物語」は、琵琶法師によって語り継がれてきた物語である。平家一門を中心に、時代の流れに翻弄され、戦い、敗れてゆくさまざまな人間のありさまを描いた作品である。

本教材は、平家と源氏の両軍が見守る中で、源氏方の若武者「那須与一」が、義経に命じられて死を覚悟で扇の的に向かい、はるかかなたの扇の的を見事に射落とす場面である。故郷の神々に祈りを捧げる姿に、いつの世も変わることのない人間のあり方を見ることができる。夕日を受けて、浪間に漂う紅の扇。その様子は、その後の平家の運命を暗示している。「扇の的」の前半では、味方の名誉のために命を懸けて挑んだ与一の心境と、与一の弓術の見事さを十分に理解させたい。後半は、与一の腕に感動して、平家の老武者が舞を舞う場面から始まる。平家の風流を好む気質が伺える場面である。しかし、与一は義経の命令により、その確かな腕を持って老武者を射倒してしまう。それまでの絵に描いたような美しい場面は、一瞬にして非情な戦の場へと引き戻されてしまうのである。

戦国時代を生き抜いた武士、那須与一。彼の心情を読み解きながら、当時の武士の生き方にふれさせたい。

(3) 指導について

本単元では、言語活動として「群読コンクール」という活動を設定した。これは、第一学年の言語活動例アを具体化したものである。群読の役割分担について話し合う活動を通して、人物の心情を考え、表現の工夫をとらえる力を身につけさせたい。

第一次では群読のモデルを聞き、ゴール像を思い描きながら学習計画を立て、見通しをもたせる。第二次では、登場人物の心情や場面設定などを確認しながら、群読のアイデアを書きためていく。グループでの話し合いなどを通して、心情の理解を深めさせていきたい。そして第三次で、互いの群読を発表し合い、アイデアを互いに評価し、認め合う活動場面にしたいと考えている。擬声語や擬態語を用いた臨場感のある場面、故郷の神々に祈り、的に向かう与一の台詞、美しい色彩感、どよめく見物人の対比、これらをどう表現するか。表現するための話し合い活動により理解を深めさせるとともに、古典の楽しさを体感させたい。

ユニバーサルデザインのポイントはいくつかあるが、本時では、「我が班の聞かせどころ」をホワイトボードに書かせることにより、視覚化を図るものである。

4 単元の目標と評価規準

観点	目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	朗読する古文の内容や表現に関心を持ち、工夫して読もうとしている。	朗読する古文の内容や表現に関心を持ち、群読をするために工夫して読もうとしている。
読む能力	古文を朗読するために、登場人物の行動や情景描写に注意して読み、理解を深めるとともに、表現の特徴や効果をとらえながら、朗読の仕方を考えることができる。	古文を朗読するために、人物の心情や行動、情景描写に注意して読み、内容の理解を深めている。 (イ) 古文の表現や特徴をとらえ、朗読の仕方を考えている。(ウ)
言語についての知識・理解・技能	作品の特徴をつかみ朗読し、古典の世界を楽しむことができる。	作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界を楽しんでいる。

5 単元の指導計画と評価の計画 (全6時間：本時5／6時間)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点 (・) 評価方法 (□) 評価規準 (☆)
第一次	1	○群読モデルを聞く。 ○単元の見通しを持つ。(学習計画)	・発表メモの例を見ながら視聴させる。 □ワークシート【関】 ☆群読する学習に意欲的に取り組もうとしている。
第二次	2	○あらすじを確認する。 ○現代文から登場人物や場面設定を確認する。 ○原文を音読する。 ○群読に向けたアイデアを交流する。	・登場人物、場面設定を現代文からまとめさせる。 □ワークシート【読むイ】 ☆歴史的仮名遣いをとらえ、あらすじを理解している。
	3	○登場人物の心情を想像する。 ○表現の工夫について考える。 ○群読に向けたアイデアを交流する。	□ワークシート【読むイ】 自己評価カード「意欲」【言】 ☆朗読することを意識して、人物の心情や表現の工夫をとらえている。
	4	○「あ、射たり。」「情けなし。」について、武士のものの見方や考え方を理解し、自分の考えをもつ。	□観察・ワークシート【読むイ】 ☆朗読することを意識して、人物の心情やものの見方・考え方をとらえている。

	5 本	○群読の工夫について考える。 ○自分たちの「聞かせどころ」を決める。	□発表メモ【読むウ・言】 ☆本時展開参照
第三次	6	○群読練習をする。 ○群読コンクールを行う。 ○単元の振り返りを行う。	□ワークシート・グループワーク観察・発表【関】 ☆群読コンクールに意欲的に参加し、朗読を楽しんでいる。

6 本時について（5／6時間目）

（1）本時の目標

あらすじや人物の心情や情景描写をもとに、古文の表現の特徴をとらえながら、朗読の工夫を考えることができる。

（2）本時の評価規準

評価規準	B	Bを達成していない生徒への手立て
あらすじや人物の心情をもとに、古文の表現の特徴をとらえながら、朗読の工夫を考えている。	自分のグループの群読に取り入れた方がいいと思う工夫を、根拠を明確にして一つ考えている。	対句、会話、音声表現など、具体的に場所を指定して、工夫を考えさせる。

（3）本時におけるユニバーサルデザインの主なポイント

〔時間 的 構 造 化〕 授業の流れ、時間配分、学習形態などを示し、授業の見通しを持たせる。

〔共 有 化〕 自分の考えを班の仲間に伝えたり、班ごとの工夫した点を発表したりすることで、全体への共有化を図る。

〔視 覚 化〕 班の工夫点を発表する際、ミニホワイトボードに書かせる。

〔スモールステップ化〕 「前時の復習→個人思考→班での話し合い」というように、群読の工夫を考えさせるために段階を踏ませる。

(4) 本時の展開

時間	学習活動	留意点 (・) 評価方法 (□)	UDの視点
導入 3分	1 前時までの復習	<ul style="list-style-type: none"> ・擬声語や擬態語を用いた臨場感のある場面、故郷の神々に祈り、的に向かう与一の台詞、美しい色彩感、どよめく見物人の対比など、学習してきた内容を板書に位置付ける。 	[視覚化]
	2 本時の学習課題と本時の学習の流れを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分たちの群読の「聞かせどころ」を意識しながら、群読発表メモを完成させよう。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・自己学習の時間、グループでの時間の見通しを示す。 	[時間の構造化]
展開 40分	3 グループの群読に取り入れたい朗読の工夫を一つ考える。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習内容をもとに、自分たちの聞かせどころも意識させながら、自分のアイデアを考える。 ・聞く人が、情景や心情を想像できるような発表メモを用意させる。 ・なぜそのように朗読するか の根拠を意識させながら話し合わせる。 	[共有化]
	4 書きためてきた発表メモのアイデアを持ち寄り、班ごとの発表メモを完成させる。できた班から、群読の練習を行う。(25分)		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> □評価方法：群読発表メモ（ワークシート）・観察 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・「聞かせどころ」は、2つ箇条書きにするよう指示する。 ・ホワイトボードを見ながら、どのグループの発表に興味があるか対話させ、発表への意欲につなげる。 	[視覚化]
まとめ 7分	6 本時のまとめと振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・群読の読み分ち・読み担いについて、自分の考えを根拠を持って考えることができたかどうかを自己評価カードに記入させる。 	

(5) 板書計画

扇の的―「平家物語」から

自分たちの群読の「聞かせどころ」を意識しながら、群読発表メモを完成させよう。

◎ 与一の心情

- ・ 追い込まれている↓神頼み
(天候も条件も悪い)

◎ 「平家物語」の表現の特徴

- ・ 対句
- ・ 擬音語
- ・ 色彩表現

〈各班の「聞かせどころ」〉

1班

3班

5班
ホワイトボード

2班

4班

6班